科目ナンバリング	U-LAS04 10020 OJ47　U-LAS04 10020 OJ46　U-LAS04 10020 OJ45 U-LAS04 10020 OJ17

授業科目名 <英訳>	統合型複合科目（人社群p2）：こころの科学　HP02 Integrated Liberal Arts and Science with Small Group Seminars (Humanities and Social Sciences p2) :Psychological Science HP02	担当者所属 職名・氏名	人と社会の未来研究院 教授　阿部　修士 人と社会の未来研究院 教授　内田　由紀子 人と社会の未来研究院 准教授　上田　祥行 人と社会の未来研究院 准教授　中山　真孝 人と社会の未来研究院 特定教授 中井　隆介 人と社会の未来研究院 助教　上田　竜平 人と社会の未来研究院 特定助教 粉川　尚枝 人と社会の未来研究院 特定助教 早川　小百合 人と社会の未来研究院 特定助教 鈴木　優佳

群	人文・社会科学科目群	分野(分類)	教育・心理・社会(基礎)	使用言語	日本語

旧群	A群	単位数	4単位	週コマ数	2コマ	授業形態	講義＋演習（対面授業科目）

開講年度・開講期	2026・前期	曜時限	火4・金5	配当学年	全回生	対象学生	全学向

[授業の概要・目的]

この授業では、こころを対象とする学問－特に心理学とその関連分野を中心として、基礎的な理論と研究方法を学び、こころと行動を科学的に理解する力を養うことを目的とする。受講者は、心理学の主要分野の概要を幅広く理解し、日常生活や社会的課題に心理学的視点を応用できるようになることを到達目標とする。
本統合型複合科目では、講義において、こころを研究する心理学の全体像と、実験や調査、臨床といった主要な領域について学ぶ。

そして、受講者は4つの少人数演習（A班：実験心理学×脳神経科学×データサイエンス、B班：社会・文化心理学の基礎、C班：臨床心理学からこころを考える、D班：美的体験の定量的・定性的分析）のいずれかに参加することによって、実習や討論を通して講義内容に関連するテーマをより深く探究する。

さらに、4つの少人数演習の担当教員が講義においても話題提供を行うことで、全ての受講生が4つの演習のエッセンスを理解できるようする。
具体的には、第1回の講義では、認知心理学や社会心理学、臨床心理学といった主要な領域を紹介し、「こころを研究する」とはどういうことかについて、基本的な理解を深める。翌週からは4つの少人数演習の担当教員が、それぞれ3回の講義を行い（第2回-第13回）、各演習の内容に関連する主要な知見や理論、方法論等を体系的に学習する。第14回の講義においては、質問を受け付け、まとめを行う。

○統合型複合科目分類【文・文】
主たる課題について文系分野の要素が強く、副たる課題についても文系分野の要素が強いと考えられるもの

統合型複合科目（人社群p2）：こころの科学　HP02(2)へ続く↓↓↓

[到達目標]

心理学における基本的な概念・理論と研究・実証の方法を多角的に理解することで、こころを対象とする学問分野における思考法やスキルを身につけるとともに、日常生活や社会的課題に心理学的視点を応用できるようになることを目指す。

[授業計画と内容]

（この授業では、講義と少人数演習を併せて学びます。講義のみ、少人数演習のみの出席では授業の到達目標に達しません）

◆講義　火曜4限
教室：共西23
第1回　オリエンテーション：こころの科学とは
第2回　実験心理学の概要（阿部）
第3回　反応や行動指標からこころを調べる（上田祥行）
第4回　脳機能計測でこころを調べる（中井）
第5回　社会心理学基礎（内田・中山）
第6回　心理学調査基礎（中山）
第7回　社会からの視点を考える（ゲストレクチャー：苅谷剛彦）
第8回　臨床心理学とは何か（粉川）
第9回　心理アセスメントと面接（粉川）
第10回　心理療法と臨床実践（鈴木）
第11回　美的体験の心理・神経メカニズム（上田竜平）
第12回　建築・都市のデザインと空間体験（早川）
第13回　美的体験の定量的・定性的分析手法（上田竜平・早川）
第14回　質問の受け付けとまとめ
第15回　フィードバック

◆少人数演習
B班「社会・文化心理学の基礎」金曜5限
担当：内田・中山
教室：人と社会の未来研究院 稲盛財団記念館 １階セミナー室(医・薬・病院構内)
履修定員：8名

第1回　イントロダクション
文化心理学の概要を説明する。演習授業の進め方と準備・発表の方法を周知する。
第2回-第6回　社会・文化心理学からこころを理解する比較文化の実際
文化比較研究についての文献を講読し、議論をおこなう
第7回-第12回　調査実習
社会・文化心理学の主要な手法である調査法を用いて実証的に研究するということを体験的に学ぶ
第13回-第14回　発表・総括
調査実習の結果を発表し、議論する。それまでの授業での体験も含めてを振り返り、こころについてのミクロからマクロまでの見方について総合的に議論する。
第15回　フィードバック

[履修要件]

こころや自己、社会、文化についての関心をもって、上述の演習に積極的に取り組む意欲のある者。
国際比較の実際を知るために受講者同士、教員との討論を行うため、他者と協力しながらコミュニ

統合型複合科目（人社群p2）：こころの科学　HP02(3)へ続く↓↓↓

ケーションを積極的にとってみようとする心意気が求められる。

[成績評価の方法・観点]

講義と少人数演習をあわせた授業全体の成績は、1：1の割合で、両担当教員が相談して評価する。講義については、14回の授業での平常点（出席と参加の状況）で評価する。少人数演習における各評価項目の割合の詳細は、初回の授業で説明する。

[教科書]

内田　由紀子『日本人の幸せ：ウェルビーイングの国際比較』（中公新書、2025）ISBN:978-4-12-102887-7
北山　忍『文化が違えば、心も違う？』（岩波書店、2025）ISBN:978-4-00-432078-4

[参考書等]

（参考書）
授業中に紹介する

[授業外学修（予習・復習）等]

授業中に指示する参考書や参考文献を、事前または事後に目を通し、授業内容を確認すること。

[その他（オフィスアワー等）]

オフィスアワーは設けないが、受講生からのメールでの質問は歓迎する。

成績証明書等では、表示文字数の制約上、英文科目名「Integrated Liberal Arts and Science with Small Group Seminars」が「ISS」と略記されます。

[主要授業科目（学部・学科名）]